八月三日

井出氏と一緒に9時頃レストランでバイキングの朝食をとっていると大西氏がやって来た。

十時少し前にホテルを出る。目が覚めて窓を開けたときは、ビルの谷間に青空と太陽が見えたのに今はまた曇空だ。

旭川郊外にあるアイヌ記念館にまず立ち寄る。ここにも何人かのツーリング・ライダー達が来ていた。

国道４０号をひたすら北上。比布、士別、名寄と走ったところでガス補給。美深を過ぎたあたりから先行する井出氏のソアラがとばし出した。ストレスが溜まったのかも知れない。しかし、俺としてはもっとゆっくり走りたいところだ。せっかく天塩川の流れが平行しているのだ。景色を見たかった。

ソアラを追ってとばしているうちに少しおかしくなってきた。バイクに酔うなんてことがあるのか知らないが、胸はむかむかし、頭はぼーっとし、手足に力が入らなくなってきた。これはいけないと思いつつも、ソアラに追走するしかない。美深から豊高町近くまでの百キロほどは生きた心地がしなかった。やはり四輪とバイクが併走するのは良くない。それぞれの快適なペースが北海道の道路では大きく異なるのだ。

豊高町の少し手前の、沼とサイロが見えるところ、そうサロベツ原野が始まったあたりで、ソアラが急に右折し道端の空き地に止まった。やれやれと思いながらも後に続いた。考えたら猛烈に腹も減っていたのだ。

少し行ったところのドライブインでラーメンを食った。これで体調ももとに戻った。

そこのドライブインに赤と青のＬＡカスタムが一台ずつ止まっていた。さっき、俺が休んでいるときに、のんびりと走って行きながらピースサインを交わしたバイクだ。北海道を北海道らしく走っているバイクは、後にも先にもこの2台だけだった。他のバイクはとばし過ぎだ。やはり北海道はホースバック・ライディングでいかなくちゃ。

今度は俺が先行したこともあって、ホースバック・ライディングで快適に走った。左にはサロベツ原野と利尻富士が見えている。

すでに宗谷岬まで行くことに決めていた・何しろ途中から素晴らしい天気になり、やっと夏らしい暑さを感じていた。途中、皮ジャンを脱いでトレーナーで走ったことさえあったのだ。

稚内分岐から右へ走る。稚内の町だ。いかにも最北の漁港らしく、生魚のような臭いと北風の冷たさが空気の中に含まれていた。途中でソアラが俺を追い越して行く。他の四輪がもっとハイペースだから仕方ない。

ソアラがはるか前方に行ったところで、俺の中に抑えていたものが爆発した。四輪のハンドルを握っているときは別として、バイクのシートに跨っているときは一度も感じたことのないものだった。

アクセルを開け続ける。スピードメーターの数字は時速百キロを越えた。今まで俺を追い抜いていったクルマを片っ端から抜き返して、再びソアラの後ろに付いた。

既に日は西の空へ大きく傾いている。しかし宗谷岬の空は快晴だろう。まだか、まだか、と思っているうちに、遂に前方に例の碑の姿を認めた。

遂にやって来た！今回のツーリングの目的は、ひたすら北へ走り、日本最北端の地にたどり着くことにあった。その目的の地にやって来たのだ。

岬の周りはたいへんな賑わいだった。四輪よりバイクのほうが多いかも知れない。やはり日本の北のさい果てへ行くということが、ライダーにとって魅力的なのかも知れない。

順番を待って、例の三角形の碑の上で写真を撮った。やったぜ！そういう気分。

宗谷岬から稚内市内に戻り、大西氏の先輩がいるという稚内市民病院へ。日も沈み急速に寒くなった。

結局、四人で飲むことになった。バイクと荷物はホテルへ置いてきた。

飲む前にその先輩のクルマであちこちへ連れて行ってもらった。まず抜海に抜ける例のダート。利尻富士のシルエット、そして日本海に沈む夕陽、すばらしく美しかった。北の海の日没らしい光景だと思った。それから納沙布岬、燈台、稚内公園で氷雪の門の碑を見てから記念塔にも登った。こうしてあちこちへ行くと、確かにここ

は日本最北端の都市だと思えてくるから不思議だ。
それから、いよいよ飲みに行った。もう八時になっていた。この日のビールも美味いこと。
二次会で連れていかれた店が、また稚内らしい小さなバーのようなところだった。私が知っている店に比べて中は暗い。いや、暗いというよりは黒いのだ。言葉ではうまく言い表せないが、ともかくそんな雰囲気の店が、また北を感じさせた。

だいぶ酔って、俺と井出氏はタクシーでホテルへ帰った。